

(様式2)

校 種	小 ・ ④ どちらかに○	学校番号	1 4	学校名	宇都宮市立国本中学校
-----	-----------------	------	-----	-----	------------

令和6年度 学習指導に関する取組

1 学習指導上の主な実態

(1) 国・県・市の学力調査などから（令和5年度「とちぎっ子学習状況調査」より）

【国語】

作文においては、第1段落（観光客を呼ぶためのポスターAとBの特徴をそれぞれ書くこと）の正答率が県より17ポイント低く、今年度も論理的理解力と自分の考えを表現する力に課題があると考えられる。また、「我が国の言語文化に関する事項（古典）」では、平均正答率が7.8ポイントと非常に低く、中学1年次の学習内容の定着に課題があると考えられる。

【社会】

「地理」の「排他的経済水域の範囲や権限に関する問題」の正答率は48.7ポイントと、市・県平均を10ポイント以上下回っている。「歴史」の「中世の日本（鎌倉時代の政治）」の内容では、24.4ポイントと、4人に1人しか正答できていない。各領域で「複数の資料を読み取り解答する問題」に課題があることが分かる。いずれも前年度と同様の傾向である。

【数学】

前年度同様「データの活用」では、市の平均を大きく下回った。「数と式」の領域では、文字式・一次方程式の計算に課題がある。また、「関数」においても、前年度同様の傾向が見られ、反比例の関係の理解に課題がある。1年次で比例と反比例の概念の復習をすることが必要であると言える。また、「データの活用」からは、読み取った傾向を文章で適切に説明することに課題があることが分かる。

【理科】

「粒子」と「地球」の領域で、市・県の平均を上回った。「エネルギー」の領域では、市平均を3.4ポイント、「生命」の領域では市平均を5.1ポイント下回った。「粒子」の領域では、実際に目に見えないものを可視化する視覚的な支援により定着が図られている。また、少数の掛け算、割り算、百分率など、基本的な計算能力や知識は例年課題である（数学科との関連）。

【英語】

「聞くこと」「書くこと」では、市平均を大きく下回った。対話の内容を聞き取り適切に応答する問題や、読み取った内容を踏まえて対話文を完成させる問題（活用）では、例年課題が残る。また、3文以上の英作文においても、例年、設問に対しての無回答率が市・県の平均より高い。

(2) 国・県・市の児童生徒質問紙・学校質問紙などから（令和5年度「宇都宮市学習内容定着度調査」）

・「勉強が好きですか。」の質問項目において、本校の肯定割合は2学年で41.0(市平均37.2)ポイントと、市の平均を上回ったが、1学年は35.7(市平均40.9)ポイント、3学年では37.5(市平均40.2)ポイントと、どちらも市の平均を下回る結果となった。

・「学校の授業がどの程度分かりますか。」の質問項目では、1学年77.4(市平均83.0)ポイント、2学年81.0(市平均80.9)ポイント、3学年78.6(市平均81.1)ポイントと、2学年は市平均と同程度であるが、1学年、3学年においてはいずれの学年も市平均の肯定割合を下回った。

・「ふだん、学校の授業以外に、1日どれくらい学習していますか。」の質問項目において、平日の学習をほとんどしない生徒が3学年では0.9(市平均2.8、本校昨年度1.7)ポイント、2学年では9.5(市平均9.3、本校昨年度21.4)ポイント、1学年では1.7(市平均6.6、本校昨年度19.2)ポイントと、どの学年も前年度の状況から大幅に改善された。

・「授業で習ったことを、その日のうちに復習している。」生徒の割合は、1学年で50.4(市平均40.3、本校昨年度35.6)ポイント、2学年では25.7(市平均34.3、本校昨年度23.9)ポイント、3学年で33.9(市平均41.2、本校昨年度41.4)ポイントであった。新入生に「家庭学習を行う習慣」「家庭学習で復習をする習慣」をしっかりと身に付けさせていくことが、本校の学力向上のポイントであると言える。

(3) 授業等への取組状況から

- ・授業の始まりには席につく、先生や友だちの話を最後まできちんと聞く、授業に必要な学習用具を忘れずに持ってくることについてはおおむね良好な状況である。
- ・課題の期限を守って提出できる生徒の割合は、1・2学年ともに市平均を上回っている。

2 今年度の重点目標

「宇都宮モデルに基づく授業改善を通し、学びに向かう力の育成と学力の向上を目指す」

3 今年度の取組（「第2次宇都宮市学校教育推進計画後期計画」に関する取組は文頭に★、「令和6年度指導の重点」に関する取組は文頭に□、授業における取組のうち重点は文頭に○）

(1) 基礎・基本の確実な定着

- ★小中一貫教育カリキュラムの推進（5月、8月、12月の研修を踏まえて通年）
- ★学力向上プログラム（独自）の「朝学習」の実施
- ★自主学習ノート・スタンダードダイアリー・クロームブックの継続指導及び指導の工夫（通年）
- ★○発表の仕方やノートの取り方など言語環境の整備、基本的な学習態度・学習技能の定着、「学習の約束」の徹底（通年）
- 「AIドリルの活用・家庭学習」指導を視野に入れた授業づくりと、基礎的・基本的な知識の定着（通年）

(2) 学習指導の工夫・改善（生徒を認め生かす授業の工夫）

- 宇都宮モデルに基づく授業改善の推進（通年）
- 「家庭学習がんばりの記録」の活用（通年）
- 校内授業研究会の活性化（通年）
- ★○「ノー部活デー」での家庭学習の推進（ありんこ学習室の利用）
- ★各種学習調査の結果の分析と公表
 - ・教科部会の定期的な実施と活性化（各調査の分析及び分析をもとにした指導の工夫・改善）
 - ・生徒一人一人の能力・適性等に応じた指導の充実（通年）
- ★効果的な発問、指示、助言、板書、ノート指導法の工夫と改善（通年）
 - ・指導と評価の一体化の推進（通年）

(3) 読書活動の充実

- ★全校読書の実施（週2～3）
 - ・ブックトークの実施（通年）
- 図書館だよりの発行（毎月）

(4) 家庭・地域との連携・協力

- ★家庭・地域から協力を得た学校行事の実施
- ★学習及びキャリア指導から家庭学習の習慣化を図るための説明（保護者会、各種通信等）
- ★保護者・地域と連携した土曜授業の実施（全1回実施）
 - ①市一斉土曜授業